



土木遺産の香 第96回

胆沢平野を潤す水路「寿安堰」 岩手県奥州市



日本工営株式会社／事業戦略本部 技術・人材戦略部
永吉 洋之／NAGAYOSHI Hiroyuki
(会誌編集専門委員)

国内最大級の傾斜扇状地

岩手県南西部に広がる胆沢平野は、国内最大級の扇状地である胆沢扇状地と北上川氾濫原から成り、豊かな自然と歴史、文化が息づく地域である。胆沢扇状地は、奥羽山脈から流れ出る胆沢川が運ぶ土砂がおよそ50万年もの長い年月をかけて扇形に堆積したことで形成され、約1万5千haもの広大な面積を有する。北に胆沢川、東に北上川、南に白鳥川と三筋の川に縁取られていて、その中には河川が1本もない。特徴的であるのは、胆沢川周辺の地形の隆起や沈下に伴い、胆沢川の流路が北の方向へ段階的に移動したことで、南北に6段の河岸段丘が形成され、「傾斜扇状地」となっていることである。6段の河岸段丘は、南から北にかけて標高が低くなり、最北部に位置する水沢段丘と最南部の一首坂段丘との高低差は、胆沢川下流部で40m以上もある

(図1)。そのため、一番低い地点を流れる胆沢川の水を河岸段丘南部の高位部にまで行き渡らせることが特に難しく、古くから多くの人々の苦労と尽力により、胆沢平野における今日の産業の礎となる水路網が整備されてきた。その一つが今回の土木遺産であり、「堰」と名の付く水路「寿安堰」である。

巧みなルート選定

寿安堰は、江戸時代初期に、旧水沢市福原の領主であったキリシタンの後藤寿庵によって計画・設計・着工された水路（この地域では水路を堰と呼んできた）である。現在は寿安幹線用水路とも呼ばれ、胆沢川から取水し、途中で複数の分水路において寿安上、中、下堰の3系統に分水し、胆沢平野の南部を潤しながら、北上川へと流れる。

寿安堰は、標高の高い胆沢平野南部に水を運ぶ

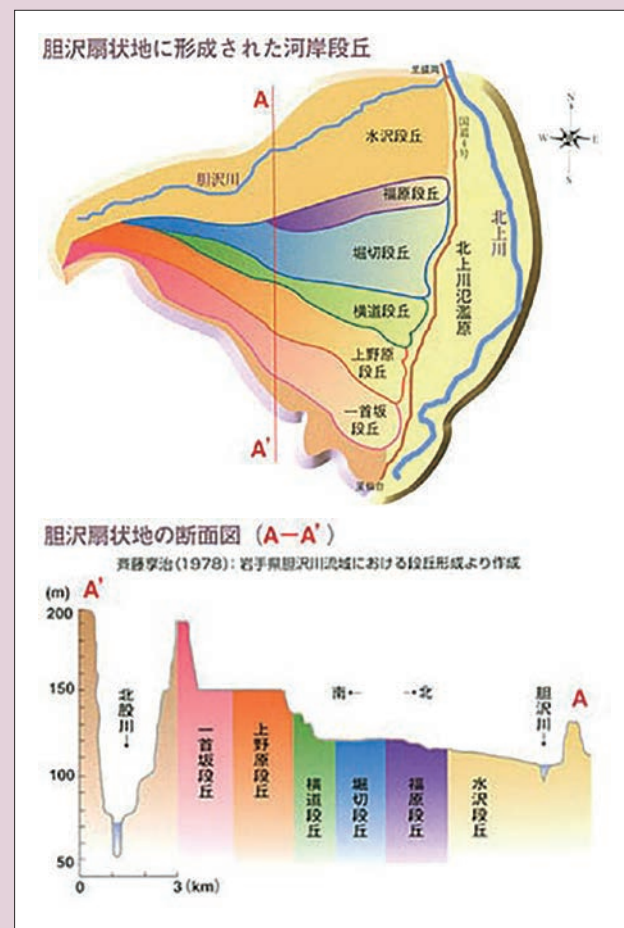


図1 胆沢扇状地平面・断面図

べく、上流区間から積極的に南進するのが特徴的である(図2)。大江昌嗣著『胆沢扇状地のむかし—寿安堰の成り立ちを科学的に探る—』によると、「寿安堰は南側の広い平野部に用水することを目的としているため、堰の土手の勾配は0.5/1,000～2/1,000程度という比較的緩やかな勾配で作られている。」すなわち、東西方向に流れる胆沢川なるべく上流部から取水し、かつ流路の上流区間においてできるだけ標高を維持して南進することで、胆沢平野南部への水の供給を実現したのではないかと推測される。また、胆沢平野西部(扇状地の上流側)には出店断層帯と呼ばれる断層帯が南北に走っていて、これを避けるために南進したこともルート選定上の理由として考えられる。このように寿安堰は、東西方向の河岸段丘面と南北方向の断層面とが織りなす複雑な地形の中を巧みにルートを変えながら流下しているのである。

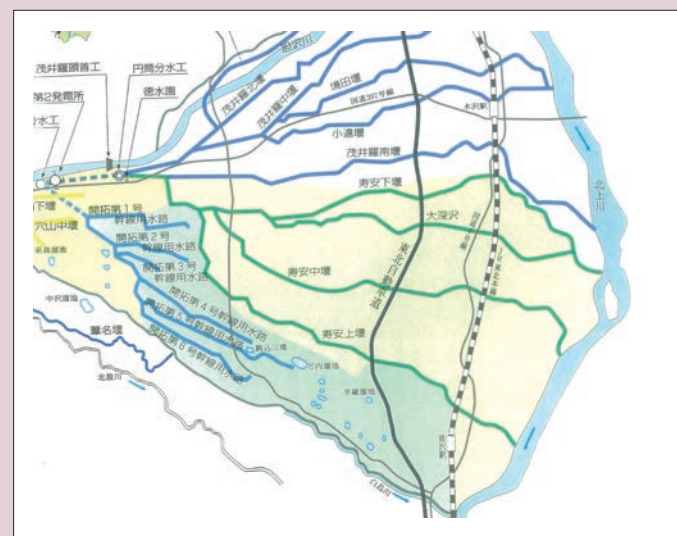


図2 胆沢平野土地改良区水路概略図(緑色が寿安堰)

胆沢平野開拓の祖、後藤寿庵の功績

堰(水路)の名称が「寿庵堰」ではなく、「寿安堰」となっているのはなぜか。『胆沢平野土地改良区史』第一巻ならびに第四巻によると、諸説あり定かではないが、後藤寿庵が工事半ばで江戸幕府によるキリシタンへの弾圧によって福原の地を去らざるを得なくなり、追放されたキリシタンの身となったことで、その名が「音」だけで伝わったためとされる。いずれにしても、水路の名称に名が冠されるほどの寿庵の功績とはどのようなものであったのかについて、いくつかの文献における記述を紹介したい。

「1617(元和3)年、後藤寿庵の領地であった見分の地(現在の奥州市水沢)を訪れたアンジェリス神父は、ローマ教皇に宛てた報告文の中で、『アラビアの砂漠の如し』と記したほどこの地は水が不足し荒れ果てていて、人々は苦しんでいた。寿庵は、この荒野に神の福音があるようにと『福原』と名付け、水路開削に着手した。」

「後藤寿庵は、胆沢川から水を引いて諸村に灌漑しようと思った。ところがその川は、長雨が降って増水すると折角開削した所も崩れたり埋没したりして思うようにいかない。寿庵は奮起して、成功させねばならぬと、決意を一層固めた。そこで苦心の末、ついに運転機を発明し、この機械を使って数丈の巨石を積み重ねて両岸に排列した。その長さは十余町(約1,090m)にも及んだが、一人の人夫も使わないで水路を通すことができた。それからは、増水して奔流しても護岸は崩壊することがなく、村々を潤



写真1 後藤寿庵像



写真2 寿安堰跡

することができた。人々は寿庵を神と思い、恵みを仰いで、その水路を寿庵溝と言った。」

「後藤寿庵は、胆沢川の激流に挑み、しかも高地に引水しようというのであるから、その工事は苦難の連続であったろうし、そこにまた創意工夫と新知識が生かされたであろうことは、想像するに難くない。」

「急流の胆沢川は、深い谷を流れる。このため、台地に水を呼び込むには、綿密な測量技術と多くの巨石を動かす技術が必要だった。その工事に私財を投じて進めた寿庵には、西洋の宣教師から学んだ土木技術と近くに数多くあった鉾山地帯で働くキリシタンによる物心両面の協力があった。」

後藤寿庵が手掛けた工事区間は、取水口がある金入道から二枚橋までとする説、大違までとする説、蛸の手までとする説の諸説がある。取水口について



写真3 寿安堰取入口



写真4 寿安堰石積工

は、現在でも確認することができるが、その幅の大きさと周辺に堆積する巨石の数から、寿庵が手掛けた工事における苦難が伝わってくる。また、石積護岸については、当時のままであるかは定かではないが、その一部が現存していて、堅牢な造りと評される野面積みを見ることができる。

1623(元和9)年には、激化したキリシタン弾圧から逃れるために、寿安堰の開削工事は一旦中止となったが、その翌年には胆沢平野で大規模な干ばつが発生し、寿庵の志を引き継いだ千田左馬によって、開削工事の再開が図られた。まずは応急工事が1625(寛永2)年に行われ、その後本格工事が1626(寛永3)年から施工されたという伝承がある。これらの工事に協力したのが遠藤大学と千田左馬の息子の千田丹後らであり、その後も数多くの人々の尽力によって、現在の寿安上堰にあたる水路が1631(寛永8)年に完成した。

■ 寿安堰とともに育む未来

胆沢平野における産業の安定・発展のために寿安堰が担ってきた役割は大きい。胆沢平野には古来より水田が存在したが、寿安堰の完成により、新たに1万7千石の増収をもたらすほどの広大な穀倉地帯

が形成された。堰を守り、維持するためには、施設管理者の尽力とともに地域住民の協力が必要であり、幾多の災害を乗り越えて、今日でも機能が発揮され続けているのはその賜物である。寿安堰には、技術的な知恵と工夫とともに、地域共同体の絆や豊かな暮らしへの願いが込められている。

胆沢平野には、寿安堰より古くに開削された別系統の水路「茂井羅堰^{しげい らげき}」があり、その茂井羅堰と寿安堰との水の分配でかつては争いが起きたこともあったが、その解決策として公平な水の分配を実現するために整備された円筒分土工は、その美しさと大きさから、地域の観光資源にもなっている。堰と分土工の整備が、水を巡る争いから水を分け合うための地域の調和を生む知恵となった。

後藤寿庵の功績は、後藤寿庵顕彰会によってテレビ番組として制作され全国放送されるとともに、郷土学習のDVD教材として奥州市内の小中学校に提供されている。市内の小学校では、水路を管理する胆沢平野土地改良区が出前授業や施設見学会を行っており、寿庵の功績は未来を担う世代に伝承されている。寿庵は今日でも地域の人々の尊敬を集めており、その偉大な功績を讃えて、毎年春にはカトリック水沢教会主催で、秋には地元の組合主催による寿庵祭が開かれる。また、胆沢平野の水利開発に尽力した先人達の偉業を伝承する「水土里の皆廊」と呼ばれる啓発イベントも例年開催されている。寿安堰は、水利施設としての役割のみならず、地域の歴史とアイデンティティを語るかけがえのない財産であり、次世代に伝えるべき知恵をこれからも体現し続ける。



写真6 円筒分土工



写真5 寿安上堰の緩やかな流れ

<参考文献>

- 1) 旧国土交通省胆沢ダム工事事務所HP https://www.thr.mlit.go.jp/isawa/sasala/tokushu/1_01.html
- 2) 胆沢平野土地改良区HP <https://www.isawa-heiya.or.jp/pages/47/>
- 3) 「水土の礎」HP <https://suido-ishizue.jp/nihon/04/07.html> (一社)農業農村整備情報総合センター
- 4) 『岩手県における耕地整備事業の歴史地理的研究 事例編』阿部和夫 1998年 岩手地域科学研究所
- 5) 『図説胆江・両磐の歴史』大島英介監修 2004年 郷土出版社 岩手県の歴史シリーズ
- 6) 『胆沢平野土地改良区史』胆沢平野土地改良区 1970年
- 7) 『胆沢平野土地改良区50周年記念誌』胆沢平野土地改良区 2001年
- 8) 『胆沢平野土地改良区史第四巻』胆沢平野土地改良区 2020年
- 9) 『農業土木遺産を訪ねて―殉教の流れ―』安斎忠雄 2000年 土地改良建設協会編『土地改良』219号2000年11月号
- 10) 『戦国の世に生まれた農業用水技術ヨハネ堰(寿庵堰)』伊藤求 2009年 全国林業改良普及協会編『現代林業』518号 2009年8月号
- 11) 胆沢平野土地改良区HP <https://www.isawa-heiya.or.jp/pages/113/#page-content>
- 12) 農林水産省農村振興局HP https://www.maff.go.jp/j/nousin/sekkei/museum/m_izin/iwate/index.html
- 13) 『胆沢扇状地のむかし―寿安堰の成り立ちを科学的に探る―』大江昌嗣著 2024年後藤寿庵顕彰会
- 14) 岩手県HP <https://www.pref.iwate.jp/sangyokoyou/nouson/kamishibai/1008853.html>

<取材協力・資料提供>

胆沢平野土地改良区

<図・写真提供>

P44上写真、写真5～7、図1、2:胆沢平野土地改良区
写真1～4:永吉洋之



写真7 放水式